

平成 30 年度第 2 回 大阪市イノベーション促進評議会 議事録

日時：平成 31 年 3 月 18 日

開会 午後 2 時 00 分

○大阪市経済戦略局（柳内課長） では、委員の皆様よろしくお願ひいたします。定刻になりましたので、平成 30 年度第 2 回大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。

本日の評議会は、ユーチューブにより同時配信をいたしております。

本日は 15 時 30 分までの予定です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○東委員 よろしくお願ひします。

○竹村委員 よろしくお願ひします。

○大阪市経済戦略局（柳内課長） 本日の議題でございますが、1 番目に平成 30 年度の大阪イノベーションハブの活動状況について。

それから 2 番目に、大阪イノベーションハブ（OIH）を拠点としたグローバルイノベーション創出支援の基本方針の策定について。

それから 3 つ目に、今後の取り組みについてでございます。

本日の評議会の主な目的につきましては、大阪市グローバルイノベーション創出支援事業の活動状況について、委員の皆様には評価をしていただくということになっております。

まず、最初に資料 3 及び資料 4 で今年度の活動実績と、私どもの自己評価を報告させていただきます。

その後、委員の皆様から意見を頂戴いたしまして、評議会としての評価案をまとめていただきたいと思いますと思っております。

本日、お示ししています活動の実績につきましては、2 月末現在のものになります。後日 3 月末の確定した数値。それから、また本日、皆様からいただきました評価案及びコメントを記入したものを、後日送付させていただきますので、御確認の上、疑義、それから追加の御意見等ございましたら、お願ひできればと思います。

その後、事務局で改めて取りまとめをいたしまして、最終案を正城委員長にお目通しいただく予定になっております。

それから資料 5 になりますが、前回の委員の皆様からの意見も踏まえまして、案について御説明をさせていただきますので、それに対する意見も合わせて頂戴したいと思います。

では、正城委員長に進行のほうをお願ひいたします。

○正城委員長 はい、どうもありがとうございます。正城です。本日もどうぞよろしくお願いたします。

先ほど、事務局から御説明いただいたように、今日、大きくは二つございます。今年度の活動状況についてということで、資料4の1にまとめた表がございますけども、そこに対する委員会の評価の粗々の案というのを作成すると。

これは、先ほどお話があったように、2月末の時点での評価ですので、3月末締めた後にもう一度メール等で議論いただきますけども、この評議会評価の欄を、概ね埋めていくというところが一つでございます。

二つ目は、このO I Hの基本方針というのが、ちょうど3年間の3年目を迎えておりますので、来年度以降の基本方針について合議をいただくと。前半が1時間弱で、後半は30分強、お時間をいただきたいと思います。

○大阪市経済戦略局（木島係長） 田中委員が着席されましたので繋がさせていただきます。

○正城委員長 はい。田中委員もよろしくお願いたします。

○田中委員（P C） よろしくお願いたします。

○正城委員長 ちょうど今から議題1を始めるところです。

では、先ほど事務局から御説明がありましたように、大阪市が取り組んできたこの大阪イノベーションハブ（O I H）の中のグローバルイノベーション創出支援事業の今年度の活動全般について説明をいただきます。

その後、皆様から御意見・感想・評価等々をいただきたいと思います。では、たくさんの内容になってるかと思えますけども、よろしくお願いたします。

では、一つ目の大阪イノベーションハブ（O I H）の今年度の活動状況について、事務局より御説明お願いたします。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） はい。大阪市のイノベーション担当課長代理の田原でございます。

本日、第2回目ということなんですけども、前回はちょうど去年の12月14日で、ほぼ3カ月ということなので、今回は、まず資料1、この1枚目の体系です。それから資料2、この現行の基本方針。こちらをさっとおさらいささせていただきますして、その次に今年度の主な取り組み。この資料3のパワーポイント。前回は4月から9月の上半期でしたが、今回は下半期を中心に、全体を対象としております。

それから最後は、A3の資料で、こちらも今回は4月から、この2月末までの11カ月で

一旦、集計したもの。そして、そのA3の下の段が、それらに対する自己評価と来期の方針です。こちらについて順番に説明させていただきます。

それでは、まず資料1をごらんください。こちら我々は、大阪市のグローバルイノベーション創出支援事業の体系でございまして、右下にございます黄色い部分です。こちら行政としての目的を書いておりまして、その達成のために、この事業①、②、③と、大きく3つ取り組んでございます。

まず、事業①グローバルイノベーション創出支援事業ですけれども、これが正にこのOIHでやっております年間200数十回のイベントをベースにしまして、それぞれのこのフェーズです。人材集積、育成、結合プロジェクト創出、支援者等との出会いと。こういったものに対応をしております。

特に見ていただきたいのが、人材結合プロジェクト創出のところの右側です。四角あるうちの下のほう、ネットワーク構築、プロジェクトを生み出すチームの組成、連携先コーディネート業務と。これらはイベントプラスアルファの部分でして、チーム作り、つなぐ取り組み、こういったソフト支援というのも、こちらでやっております。

それから右上の方を見ていただきまして、イノベーション創出支援補助金です。こちらは、後に主な取り組みのところでも少し触れますが、大阪市直営の補助金でございます。

それからその下です。大阪・関西の人材、ベンチャー、大学、大企業、VC等と。これは今後、大阪・関西セットで使うことが少し多いんですけれども、これは、ここ一、二年で急速に活発になってきました動きでありまして、近隣の都市とか府県が一緒になって、オール関西の取り組みでございます。ベンチャーサポートという形で銘打っております。

それから、その下です。事業②、こちらがアクセラレーションプログラム。ちょうど3年たちまして、6期終了するところでございます。こちらも後ほど、触れさせていただきます。

それから左下ごらんください。事業③、国際イノベーション会議「Hack Osaka」こちらは、正に先週の水曜日3月13日に開催いたしました。こちらも、後ほど説明させていただきます。

続きまして資料2のほうをごらんください。この基本方針（改定版）とありますけれども、こちら6年前に初め策定いたしまして、3年前に見直しました。それが3年経過したということで、この度また改定するというものでございます。資料も含みます全体版は、参考資料2として、少し分厚いやつ。ホッチキス止めにしたものを後ろにつけてございます。こちらは、ちょっとポイントだけ説明させていただきます。文字が並んではおりますが、趣旨とし

ましては、うめきたを拠点にイノベーションエコシステムを構築しますと。

それから大阪を世界とつながる中継都市にしますと。世界で戦うには大阪・関西の強みを結集させて発信していく必要がありますと、そういう趣旨で書かせていただいております。

次のページをご覧ください。四角丸で色々こういうことをします。こういうことをしますっていうのを書いておるんですけども、基本方針この3年間で目標としておることです。こちらが2ページの下半分です。5番「基本方針の目標」というところに書いております。OIHの活動に新たに参画またはSNS等でつながる人数15万人と。これ3年間ですね。

それから今年度は、ピッチイベントの回数が50回。それから3番目としてグローバル展開を見込まれるプロジェクトの創出・推進支援が3年間で150件。

またベンチャー企業等が投資を受けた額、3年間で25億円。こういったものを目標に掲げてやっております。こちらの達成状況は、また後ほど説明させていただきます。

それからその横の基本方針の視点です。主な視点は、この太字の3つのとおりでございます。

簡単ではございますけれども、次の資料3、今年度の主な取り組みの方に移らせていただきます。今回1年間が対象なんですけれども、主に下半期の目玉事業、それから年間通して取り組んでいること。そして近年新しい動きです。この3つの観点で御説明いたします。

開いていただきますと、まず、国際イノベーション会議というのが書かれております。こちらは、先週終わったんですけれども、今回国際イノベーション会議として7回目になるんですけれども、意識しましたのは「オール関西で取り組む」ということ。

それから登壇者とオーディエンスの交流。相互交流ですね。これの機会を増やすということ。それから単なる1日ものの会議ではなく、そこをビジネス創出のきっかけの場にすると、そういった仕掛けでございます。

特に、メインホールで国際会議のコンテンツが、ずっと5時間ぐらいにわたってあるんですけども、少し力を入れましたのが、このサブ会場ですね。概要と書いてるところの3つ下の行にサブ会場とありますが、同時進行でやっていますサブ会場、こちらを充実させております。

書いてありますように、展示ですね、ショーケースのほかに関西の学生ピッチとか、あとはアメリカで開催されるMonozukuri Hardware Cupの日本予選。それからベンチャーキャピタル等と起業家等の面談の場。それから新しい取り組みなんですけど、登壇を、スピーチを終えたスピーカーと来場者との直接の対話の場。こういうのを設置して

おります。

その下です。参加・実施状況なのですが、今回は、参加者が757人と、過去最高を記録いたしました。外国人の方にも108名参加いただいております。それから国際会議以外に、少し力を入れたものがございます。これは商談会2件、2件というか2種類の商談会を同時進行で開催いたしました。

まず、一つはピッチコンテストに登壇した海外のスタートアップ8社を含む、合計14社と日本の大企業との商談会というのを、翌日に開催しました。こちらは65件の商談をいたしました。

それから、その下のRBC In Osaka商談会、及び神戸・京都ツアーと書いておるんですけども、こちらは経済産業省とJETROのプログラムを活用いたしまして、海外のアクセラレーターと投資家を、合計5社招聘いたしました。

それから当然スピーカーとしても一部登壇していただいたんですけども、こちら翌日に日本のスタートアップとの商談会を開催しました。それからこのHack Osakaの前と後ろに、京都・神戸ツアーというのも開催しまして、大阪が関西のハブであると。大阪にアクセスしたら神戸・京都にも容易にアクセスできる。そういうふうな地の利も含めて、大阪の魅力を発信するというので活用しております。こちらの商談会も合計39件の商談を実施いたしました。

次、5ページごらんください。このグローバル展開にむけた取り組みです。これの一つ代表例として、Get In the Ringっていうのを挙げております。こちらは、オランダ発祥の国際ピッチバトルでして、今回OIHで開催するのが3回目。ライト級とミドル級の2階級を実施しましたが、今回は、どちらも日本人が優勝をしまして、6月にドイツのベルリンで開催される本戦に進んでおります。

その下が、オープンイノベーションの取り組みです。こちら4つ上の段、事例を載せております。我々イノベーションエクステンジと呼んでおります大企業とベンチャーのマッチングなんですけども、主に大企業側が課題等を発表するところから始まる。いわゆるリバースピッチとも呼ばれるものなんですけども、下半期は、非常にこの大企業の参画がOIHは増えております。このスタイルなんですけども、まず、オープンの中で大企業から課題等の発表、提案があって、その後少し期間を置いてスタートアップの側から、それに対する解決策とかビジネスの提案があって、その後クローズの商談に進んでいって、こちらOIHはフォローアップを続けていくと、そういう仕組みでこの10月から2月にかけても4件実施し

ております。

それからその下です。こちらにもベンチャー型事業承継のイベント。これはピッチとかアイデアソンのスタイルで実施しております。

次まいりまして、去年の11月なんですけども、大阪イノベーションハブの開設5周年の記念フォーラム。Osaka Innovation Xというのを開催しております、240名の方に御参加いただきました。こちらは入りませんので、下のナレッジシアターで実施したわけなんですけども、こちらはこの5年間の軌跡を振り返りまして、あとこの2年間の間にできました大阪市内の民間のイノベーション創出拠点10カ所です。こちらにも大阪の助成金を出しておるんですけども、この10カ所の拠点の方々にも登壇をしていただいて、ビジョンを共有いたしました。

それからその下が、PRツールというのが、こちらにもこの下半期の間に情報発信の一環として、こういったものを作っております。例えば、日本語、英語のパンフレットを整備したほか、OIHの入り口のところにございます棚、ディスプレイです。こちらにも新たに設置しております。それから、そのページの下のほうです。シードアクセラレーションプログラム、我々略してOSAPと呼んでるものなんですけども、こちらにもこの3月で、ちょうどこの6期目が終わるところ。ちょうど実は、今日この6期生のデモデイというのが、夕方5時から開催予定になっておりますが、こちらにもメンタリング等を通じまして、主に投資と大企業との事業連携を目指しております。ここにも書いておりますように、6期で総額42億円を超える資金調達に成功をしたほか、大企業とも合計47件の提携という実績があがっております。

次のページいきまして、産学官連携の取り組み、御説明いたします。産学官連携もOIHで、様々なイベント等を通じてサポートさせていただいておるんですけども、一つ今年度やりましたのが、このテックミーティングと呼ばれるものです。これは大学の持つ研究技術シーズを基に、新たな事業を創出できるようなきっかけを提供いたしましよという目的で、今回今年4回実施しております。実施状況こちらです。大阪大学さんとJSPさん。この研究開発型ベンチャーのと書かれてる3つ目のもの、こちらはNEDOさん、JSTさん、それから近畿総合通信局さんとの共催。それから最後は大阪市立大学さん。これら目的とか提供をするメニューは、少しずつ違うんですけども、対象としては技術ベンチャーのほか、中小企業とか大企業の新規事業担当者。それから技術系の商社など、幅広い方々の参加をいただいております。

それから下の段にいきまして補助金です。こちら、もうOIHの開設前から続けている補助金になりまして、これまでは、ずっと市内に事業所のある企業等とコラボする全国の大学に対する補助ということでやってまいりましたが、来期からは、これに加えて市外の企業等とコラボする市内の大学にもその対象を拡大して参りたいという風に考えております。

それでは、最後のページご覧ください。OIHでは、その主にスタートアップの皆様へのピッチの登壇とか、ピッチに向けたトレーニング。あとは、その人材とかパートナーへの繋ぎとか、イベントのフォローアップ様々なサービスを提供しておるんですけども、こちらが今年サポートしたプロジェクトの事例を挙げさせていただいております。一つは、盲ろう者のコミュニケーションを拡大するデバイスです。こちらOIHでは、イベントに向けたメンタリングとか、あとはHack Osakaでのブース出店、こういう風なサポートをさせていただきました。下の段のこのSagriです。こちらは農業を最適化するアプリケーションを開発される企業なんですけども、こちらGet In the Ringで優勝をされたんですけども、英語でのピッチトレーニングとか、その後世界大会に向けたサポート等という形で支援をさせていただいております。

最後です。OIHで活動をするコミュニティとありますが、OIHイベントを通じてコミュニティ形成っていうのも進めておりまして、直近ではこの「若手サミット」っていうのが一つありました。こちらは、名古屋を中心とした東海地方の発祥なんですけども、正に今月です。実は一昨日だったんですけども、トライアルで大阪でもイベント実施を始められました。

以上、主な取り組みの説明となります。続きまして、A3のほう、ちょっと縦長になる分です。こちらをご覧ください。上と下に分かれてまして、ちょっと便宜上、上が資料4-1、下が資料4-2の評価ということにしておりますが、前は9月末まで、今回は、途中ですので2月末までということにしてまして、一番上のところに4つこの矢印でつながれたところ情報発信、コミュニティ形成・連結、プロジェクト創出、そしてプロジェクトのショーケースの流れで取り組み・分類しております。

あと左端の部分も見ていただくと、大きくアウトプット（事業例）とアウトカム（成果）と。それぞれに対して上の段が目標、下の段が実績と、そういうふうな構成で書いております。ものすごい文字も数字も多くなっておりますので、ちょっと黄色で塗らせていただいたところを中心に解説させていただきます。

まず、一番左端の情報発信なんですけども、情報発信の合計です。総件数は目標700件

に対して816件と。こちらは目標を達成しておりますし、あとはアクセラレーションプログラムのほうでも相当数の発信ができております。あとアウトカムのところでも、出展です。こちらでもTech In Asia、未来2019東京・大阪と、それぞれで3回という成果をあげております。ただ、少し英語での発信、こちらが思ったほど進まなかったという課題はございます。

それから左から2番目のコミュニティー形成・連結の部分ですけれども、まずイベントの回数は、これご覧いただくと目標の72回に対して189回。それからテックミーティングが4回ということで、2倍以上の実績となっております。あとOIHを活用くださる会員です。我々プレーヤーとパートナーに分類しておりますけれども、こちらの会員数もこの度、1000者を突破いたしました。あと、来場者数、イベント参加者数につきましては、3月分が未集計ではありますが、昨年並みか、こちらは少し昨年を数字では下回るかもしれません。

それからその右の段に進んでいただきまして、プロジェクト創出です。こちらはピッチイベントです。3月も複数回既にやってるものから、あと最後の最後まで予定されてるものがございますので、こちらは50回を上回る見込みです。大体これで週1回は、OIHでピッチが行われているという計算になっております。

あとプロジェクトの創出・推進支援も何とか50件達成しております。あと、このプロジェクトが獲得した資金です。こちら今年度が大きく伸びまして、目標を上回っております。

それから一番右側のプロジェクトのショーケース、こちらは主に国際イノベーション会議Hack Osakaのことを書いておるんですけれども、先ほども少し触れましたが、参加者数は757人で過去最高ですと。外国人の比率も14%に達しております。

以上になります。それぞれこのA3の下の方の資料4-2です。こちらにこの4つごとに自己評価と我々の事務局としてのコメント、こちらを書いております。これもまた簡単に御紹介いたします。

まず、一番左の情報発信なんですけれども、数字的なものでは上回りました。目標を達成しましたし、あと出展も増えました。それから下の方に書いてありますが、Forbes Japanにも注目すべきイノベーションハブ5選、日本国内のイノベーションハブ5選として掲載されるなど、実績もあったんですけれども、イベントレポートの部分と、あと英語での発信です。こちらに少し課題が残っておりますので、アウトプットがB、アウトカムがAというふうにしております。それから来年度の方針もこちらに書かしていただいておりますが、特に下の方、下線引いている部分、大阪市の経済戦略局内でも、幾つかそのイノベーション

の関連施策というものがございますので、こういったところと連携して「イノベーション都市・大阪」のイメージ作りにも取り組んでいきたいと思っております。

それから左から2番目、コミュニティ形成・連結なんですけども、こちらもイベント数とか参加者、これも目標を大きく上回っております。特にコミュニティは一気に拡大したかなと思っております、国内外の事例をこのコメントの下半分に載せております。これは本当に1回イベントを開いてもらいましたというだけでなく、その後のフォローアップもかなりの割合で進んでおります、それぞれ連携プロジェクトの創出に向けて動いているところでございます。

この前の評議会でも御指摘いただきました。ダイバーシティ、イノベーションの源泉のダイバーシティです。こういったことを意識した取り組みを進めております。そういったこともありまして、アウトプットの方はSで、アウトカムはAというふうに自己評価を書いております。

それから右に進みましてプロジェクト創出のところなんですけども、イベント数は目標を上回っておりますし、あとプロジェクトの推進、それから資金調達のこちらも順調です。それに加えて大企業とか、大学等との連携こちらも順調に進んでおりますので、どちらもAとさせていただきます。

最後に右端のプロジェクトのショーケースです。こちらは国際会議なんですけども、1日のイベントではなくて、その先週を丸ごと使って商談会をしたり、大阪のプロモーションあるいは京都・神戸にも行ってもらったりして、取り組みの幅を広げてまいりました。特に、オーディエンスのかたはもちろんなんですけども、登壇者とか招聘者の満足度も上げていきたいということで、少し手厚く実施しております。いろんな場面で、大阪とか関西のプレーヤーとの交流も増やしましたし、あと露出も図ってまいりました。そういったこともあってアウトプットの方は自己評価Sをつけさせていただきます。

こちらもダイバーシティを、当然高めたいということで来年度は、ダイバーシティを高めていきたいし、あとハックアワードの質も高めていきたいんですけども、やっぱり前回御指摘も少しいただいたとおり、やっぱり大阪でやるショーケースってということなので、大阪のストーリーです。その大阪のローカルの方の興味をひいて、もっと参画できるような仕掛け、こういうのを作っていきたいというふうに考えております。

こちらA3に基づいての御説明は以上となります。私からの説明は以上となります。よろしく願いいたします。

○正城委員長 はい、ありがとうございました。ただいま1年間の取り組みの特に下期に重点をおいて説明いただいて、自己評価のところもアウトプットとアウトカムに分けてあるっていうことでお話いただきました。それでは、今から40分ちょっとお時間を経て議論したいと思いますが、最終的にはこの自己評価の妥当性を踏まえて評議会としての評価案を作るんですが、どこの部分でも結構ですので質問とか御意見のところからディスカッションを始めていきたいと思います。いかがでしょうか。

○竹村委員 じゃあ、1点質問なんですけれども、Hack Osakaもすごく良くて、素晴らしいなと思った。特に外国の方は14.3%ということで、すごいなと思ったんですが、国内の参加者の方のざっくりした参加者プロフィールっていうのは、どんな感じに。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） 詳細が、まだちょっと細かい属性といますか、地域別みたいなのは出せてないんですけども、さすがにほとんどが関西、大阪を中心とした関西になりまして、大体その大企業、あと中堅・中小企業、あとベンチャー、学生、その他。その他の中には、その投資家の方とか政府系機関の方とかです。大体、今申し上げたのが、4分の1ずつぐらいになってるかなという印象です。

○竹村委員 なるほどです。ちょうど3年前ぐらいにお邪魔したときが、割と若手な方がまだ少ない印象だったんですが、そこはかなり増えてきている。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） そうですね、今年は実はHack Osakaが始まる前に午前中に、この関西学生ピッチコンテストをやりまして。

○竹村委員 ああ、なるほどなるほど、はいはい。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） そこで受賞した人とか、そこ見に来てくれる人が。

○竹村委員 あっ、そのまま、いいですね。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） そのままHack Osakaに流れていくように、ちょっと誘導をしまして、そういうのもあって少し学生には見てもらえたかなという印象ですね。

○竹村委員 なるほど、なるほどありがとうございます。

○正城委員長 はい、その他はいかがでしょう。田中委員、事務局の説明聞こえてましたですかね。

○田中委員 はい、鮮明に聞こえました。

○正城委員長 そうです、はい。いかがでしょうかね。

○田中委員　まあ評価辛めのところもあれば、甘めのところもあるのかなとは感じたんですけども、コミュニティーの形成でSというのは、私もそうかなという感想を持っています。あと、せっかくコミュニティーができたんですけども、広報がBになってるように、もう少し大阪市の取り組みというものが内外で、しっかりと知られていけばいいんだろうなというふうに感じてます。やっぱり福岡であるとか、国内で別の都市に関しては、かなりスタートアップですごいみたいなプロモーションを充実させてますけれども、内実をみると大阪のほうが凄いいんじゃないかなというふうには感じてます。

○竹村委員　うんうん、確かに確かに。

○田中委員　実体として、せっかくできたなら情報発信をもっとしっかりやっていくというのは、これからの課題としてもいいのかなというふうに感じています。以上です。

○正城委員長　はい、ありがとうございます。これは事務局いかがでしょうか。メディアの露出というのが少ないんでしょうか。少ないというか多くないというか。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　情報発信のところの来年度の方針の一番下のところにも書いてるんですけども、今、田中委員から大阪市の広報に情報発信の入れ方ということであったんですけど、私どもいろんな施策をやってるんですけども、やっぱりそれがバラバラで、ちょっとかなり出ていってるところがありまして、やっぱり今福岡というお話もありましたけれども、福岡の取り組みなんか見てたら、やっぱり上手くまとまって出てるんですね。そういうところは、いろいろと勉強させてもらったりもしております、それでこの情報発信の一番下に書いてありますように、そういうふうな関連の施策をいかに上手くまとめて、プロモーションをやっていくかというようなことで、いろいろ他の進んでる広報をやってる。進んでる情報発信してるところのいろいろ例なんかも参考にしまして、この辺はできるだけアピールしたり、そういうプロモーション効果があるようにやっていきたいと思っておりますので、そういった点でもまた今後とも御指摘、委員の皆さんからいただけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○正城委員長　あの、関連する資料3の7ページでPRツールっていうのが充実となっているのがありましたけど、これは最近作られたんだと思うんですが、これを作成されて以降の、特にメディア側への対応みたいなのはいかがなんでしょう。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　今のところは、まだ具体的な反応っていうのはないんですけど、この写真に載ってます方なんかでしたら、大学のシーズを基に起業をされた方とか、それから第2創業で起業をされてる方とかもいらっしやいまして、それでやっぱり世の

中でO I Hっていうのはスタートアップだけに、これちょっと限ってるような、本当にそういうようなごく一部の若手のこういうふうな、これから起業を目指そうという方に限られてるような印象をお持ちの方もいらっしゃるんですけども、そうじゃなくてもっと大学のシーズとかも使えるように、それがO I Hでもいろいろサポートしてる。第2創業のかたなんかでもO I Hで、もっといろんなサポートをしてるっていうようなことで、そういうことも分かるように発信してるんですっていうことは、最近ちょっといろいろプロモーションなんかでも言うようにしてまして、そういうことがきっかけになりまして、少しでも効果が出まして更にそれでエコシステムの充実というようなことに繋がっていったり、O I Hはこんな利用の仕方もあるんだっていうようなことが広まっていったらと思っておりますので、この辺もこれからこの起業家ライブラリーなんかも増やしていきたいと思っておりますので、それでそういったプロモーション、情報発信も充実させていきたいというふうに思っております。

○正城委員長 はい。

○竹村委員 情報発信で、ちょっと追加で質問プラスコメントなんですけど、今目標としてある内訳が、どちらかというとテキストコンテンツプラス写真っていうような印象を受けるんですけど、動画に関しては、例えば、H a c k O s a k aとかビデオライブラリーが作られたりとかすると思うんですけど、これだけイベントの数があるのであれば、例えば、分からないんですけどその関西の若手の起業家さんの何か動画のライブラリーに、英語の字幕をつけてあげたら海外の人も見れるようになるとか、何かせっかくその集積っていうことを仰っているんで、やっぱり海外からの発信のインバウンドを増やしていくには、テキストだと非常に魅力を伝えづらいと思うので、ちょっとその動画戦略みたいなところも今後考えていかれると、福岡をちょっとマークするような。福岡が良い悪いというか、すごく参考例として素晴らしいと思うんですけど、多分テキストと写真だけだと、これからの時代だと、特に海外から引き合いを増やしていくのは難しいかなっていうふうに思うので。

○東 委員 やっぱニューヨークとか、トロントもきれいな動画を作ってるって、大体1分足らずぐらいの。

○竹村委員 大体、結構カッコよく作ってるんですよ。そこがポイントだと。

○東 委員 動画もおしゃれですね。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） ちょっとその辺は、これからの我々のマンパワーとか、お金の問題とかもいろいろトータルで、また見ていきまして、今、竹村委員からいただきま

した御指摘なんかも踏まえて、より効果的な情報発信やっていきたいと思っておりますので。

○竹村委員　そうですね、目標設定のところで、ちょっとそういったところも御検討をいただいて、何かテンプレート化とかしちゃうことで、そんなにコストを上げずにある動画を、ちょっと編集してカッコよくシリーズ的に見せていくとかっていうのはできると思うんですよ。なので、何かその辺は工夫していただければと。

○東　委員　関西でも結構、そういう若手の長けた者にクリエイターにやってもらったらどうなんですかね。

○竹村委員　そうですね、そうです、いいアイデア。

○東　委員　そうすると、コミュニティー化してるでしょうから。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　ええ、そうですね。はい、ありがとうございます。

○正城委員長　ありがとうございます。そのほかの点いかがでしょう。東委員何かありませんか。

○東　委員　そうですね、これずっと続けてこられてるんで、大体もう型というのはできてきてるんで、多分次の話だと思うんですけど。だから、これは引き続きやられていくとは思いますが、今後多分、先ほどのプロモーションもバラバラになってるとか、今後プロジェクト創出とかをしていくのであれば、多分、恐らくこれだけかい行政単位なんで、ほかの行政区、行政部局の巻き込みがどれだけ上手くいくかが多分、その都市の競争力に全て繋がってくると。さっき福岡も完全に行政一つのミッションでまとめて、全ての政策はそのビジョンで落としていってますけど、大阪ほど馬鹿でかくなると、ちょっとやっぱりまあ幅広いので、府もありますしね。それをうまいこと市ともにまとめていこうっていう動きがあるので、そこはうまくいけば東京より早くできるかもしれない。

○大阪市経済戦略局（柳内課長）　確かに委員御指摘のとおり、そのかなり巨大な行政組織ですので、うちの局内だけでも部長が先ほど申しましたような幾つかの施策があったりするんですけども、他の行政局っていうことでいうと、やはりここでやってるような取り組みであるとか、スタートアップの力を、例えば社会課題の解決に。

○東　委員　そら、そうなんですよね。

○大阪市経済戦略局（柳内課長）　どうつなげていくかっていう視点も。

○竹村委員　はいはい。

○大阪市経済戦略局（柳内課長）　やっぱり大事なのかなと思っておりますので。

○東　委員　そうしたほうが、よっぽどプロジェクト出てくるので。

○大阪市経済戦略局（柳内課長） はい、その辺りは気にはしているんですけど。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） ええ、コミュニティ形成のところの来年度の方針のところに赤くマーカーを塗ってますところが、今、正に課長が申しましたようなことでして、やっぱりここ大阪イノベーションハブっていうのは、行政がやっぱり運営してますので、やっぱり行政いろんな各部署、いろんな課題っていうのがありますので、こういうふうなイノベーションとかの力で、そういうふうな課題解決っていうのが何かできないかっていうようなことも、重要なテーマだと我々は考えてまして、そのためにもちょっとそういうふうな課題は各局ありますので、各部署で連携できるようなところは、ここを使ってもらってそういう課題の解決に何かこの会員の力を使って何か、そういうふうなものにつながらないか、そういうことも考えていきたい。それでまた新たなコミュニティを作ってやっていければというふうに思ってますので、そういうことにもトライしていきたいと思います。

○竹村委員 今回の東委員のお話でちょっと思ったんですけども、何かこうせっかくここまでコミュニティを作られていて、大学のシーズみたいなものの事業化っていうお話があるのであれば、そのやっぱりスタートアップにとって一番の課題の一つって資金調達だと思うんですね。それなりに調達の額っていうのはされてると思うんですけども、やっぱりそこですごく頼りになってくる一つっていうのは、政府とか自治体とかの支援だったりすると思うんですけども、やっぱりその支援はいるのって、ものすごくアドミの業務的にもすごくスタートアップにとっては知識も負荷もないみたいのところがあって、最近知人がちょっととある自治体で、自治体のお金をサポートいただくってしてたら、余りにも書類が大変だったので、過去に1件も下りてないっていう初めての第1件として調整してほしいっていうのを、ある県であったんですけど。

○東 委員 なるほど。

○竹村委員 例えばなんですけど、この大阪イノベーションハブを何か核として、そういった自治体連携での支援みたいなのが、日本で一番効率的に申請とか給付が得られるとか、そのコーチングとかしてもらえとあって、ものすごいスタートアップには魅力だと思うんですね。なので、何かそういったコミュニティ作ってやってくぞっていうときの潤滑油みたいなところも、今後ちょっと出すだけじゃなくて、やっぱりそのスタートアップっていうリソースがないので、そこがものすごく慣例になってる。シンガポールなんかは良い例だと思うんですけども、何か驚くぐらい簡単にできちゃうみたいな。でも、その代わりにカウンタビリティをきっちりチーム関西というか、そのオール関西でK P Iとかトラッキン

グしてて、その人たちがちゃんと成功するように見守っていきますとかっていう、今までのものって結構、割とお金はあるけど、その後のトラッキングはそこまでされないみたいなものがすごく多かったの、逆にガチガチにその入り口のところでしてたのもあると思うんですけど、逆にその入り口は、もう少し簡素化するけれども、きっちりフォローをしていって、フォローの状況で少し追加していくとか何かやり方を工夫すると、もう少し寛大にこういった大学シーズとか、イノベーションがすごくレベルが高いけど、そんなにプライベートのVCとかがつきづらっていうものにお金がつきやすい構造を、大阪を中心とした関西とかで作っていかれると、かなり差別化になるんじゃないかなと思うんですが。東委員がその辺は詳しくていらっしゃると思うので。

○東委員 淡路市のお手伝いをしたときも、ちょっと資金を交付金にしたんですよ、スタートアップのときに。補助金というよりは、よほど使いやすいお金という。だから結構そのただの一般的な2分の1補助というよりは、民間の投資をセットにして交付にするというやり方にすると、先に手元いって、ある程度スタートアップの手続が大分楽に。それは逆に行政ができる仕組みなので交付っていう。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） あの大阪市から、ちょっとそういうふうなお金出すっていうのは、ちょっと今なかなか難しいところもあるんですけど。ただ、最近のOIHでの取り組みっていうのは国がやっています。持っています、いろんな支援のお金です。NEDOさんとかJSTさんとか、そんなとこいろんな団体に集まってもらって、それぞれのお持ちの補助金とか、そういうふうな支援するお金について紹介してもらおうという。それをスタートアップの方々に説明してもらおうっていうのを、一斉にそういうふうな国の団体関係など集まってもらって、それでこういうふうなところ、こういうのがありますよというようなことを一斉に説明したことがございました。

NEDOさんとかにお聞きしても、やっぱりなかなかその情報が知れ渡らないというような課題が逆にあるようでして、自分たちもこういうふうなものを持ってるけれども、もっと利用してほしいという。スタートアップの方は、なかなかそういうふうな資金の情報が入ってこないというような、それぞれがうまくいくように、両方がちゃんとマッチングできるようにというような、そういう趣旨でやった取り組みにはなるんですけども、成果のほうは、ちょっとまだ把握できてないんですけども、ただそういうふうなことで、こういういろいろ国の関連の団体の方から、こういうふうな資金援助があるよといったようなことですか、それからそこでそういうふうな資金援助を受けて何かスタートアップが盛り上がって

きたら、それはまたO I Hのほうでサポートをしていくっていうような、そういうふうな仕組みができないかというふうにも、それも考えてます。

ちょっと今委員の方々からお話伺いましたところに、そういう取り組みちょっと一番我々も、それを1回やっただけなんですけれども、これからもちょっとそういうふうな機会ありましたら続けていって、少しでもちょっとそういうふうな御指摘いただいたようなことに、そういうふうな取り組みもやっていきたいと思っておりますので。

○東 委員 特に大学の方がよく御存じだと思うのは、NEDO とか含めてめちゃくちゃどんどん面倒くさくなってまして、どんどん厳しくなってるんで、あれ我々のバックオフィスでも、なかなか大変だぞっていうところが、スタートアップでできんのかっていう世界に実は現実にはなっちゃってるんですよね。そこは逆に、その取れてからのサポートだとか、誰に相談していいかわからん状況で、最後に相談していくっていうのもなかなか大変なんです。

○大阪市経済戦略局（唐谷課長代理） 一応この9ページです。9ページのこの3つ目のところに研究開発型ベンチャーのための公的資金活用セミナーという、これで説明させていただいて、いろいろ書き方も説明させていただいた上で、ちょっと今部長がおっしゃったように、ちょっと。

○東 委員 使ってから。

○竹村委員 そうなんですよね。

○東 委員 しまったっていうような、こんな使い方したら、一切見ないとか。

○正城委員長 補助金を。

○東 委員 そうですね、書き方は、そろそろみんな慣れてきてるんですよ。取れてからが、結構皆さんそれぞれ。

○正城委員長 資金面では、資金面っていうのか、関西だと金融機関がかなり活発に新しいエビデンスとかベンチャーとかの支援のお金をされてますけども、そういうところは国系に比べると、やっぱりその柔軟な対応をしていただけるので。

○東 委員 マッチング・・・ね。

○正城委員長 ええ、そうですね。そういうところも一緒に情報を流していただけるといいのかなと思います。このベンチャーを設立するとか、設立して間もないときにその専門家、特に弁護士とか税理士とか会計士の方とかの要請っていうのは、O I Hには来ないんでしょうか。一般的には、そういうところが繋がりが不足しているっていうので、情報を求められ

ることが多いんですけども、それはもう既に民間で大阪の場合は充足してて、わざわざOIHまで来ないのか、やっぱりそういう専門家人材の紹介みたいなリクエストはあるのかっていうのは、それはどうですか。

○大阪市経済戦略局（柳内課長）　そうですね、先ほど先生仰ったその民間企業が持つて資金の獲得に向けた情報提供みたいなことは、我々でもしてるんですけども、それを実際に、その選定をするようなところでOIHをどう使っていただくかっていうところについては、ちょっとまだこれからの課題かなというふうに思っています。

○正城委員長　了解です。

○大阪市経済戦略局（木島係長）　肌感覚的には、お金がないから調達してからかなっていう。

○正城委員長　先にそこっていうことです。

○大阪市経済戦略局（木島係長）　ただ、すごい多いと思います。専門家の相談を受けた方が、できるだけ初期で受けた方がいいよということだったと思うんですけども、今してる方の肌感覚は、やっぱりお金もないし忙しいから、何かよさそうだけど、必要そうだけれど、ちょっと自分と距離があるとお考えの方がすごく多い印象です。

○正城委員長　なるほど。

○大阪市経済戦略局（木島係長）　OSAPの60社の感覚でいうと、大体みんなそんな感覚を持っておられるようです。

○竹村委員　関西には、そういう何か士業のかたとかは、何かプロボノで貢献できるようなネットワークはないんですか。

○大阪市経済戦略局（木島係長）　そうですね、今立ち上がり始めているぐらいの感覚で、その関西のベンチャーは大抵夜行バスで東京に行って、そういう士業の方の話を受けるというような、そういう肌感覚がちょっと変わってきつつあるという。

○正城委員長　一応3士会という3種類の士業の会っていうのがあって、弁護士、会計士、弁理士か何か勉強会みたいなのをされてらっしゃるんですけど、なかなか余り伝わってないんですかね。

○東　委員　恐らく、多分これは大阪でも一時、特許庁と連携して評価聴取というのを特許庁が担ってるんですよ。弁護士の流動性は、結構高まってきてスタートアップに移るようになってるんですけど、弁理士側は特に見えてないってということで、みんな特許庁がこれ問題視していて、一番詳しい弁護士のかたや弁理士の方々、よほど大企業のほうがビジネスに

なるので、そっちに出てきてないんですけど、これからその若い将来を目指す弁理士たちのモデルとして、こういうスタートアップと連携するっていうのはありじゃないかっていう話を、今特許庁が旗振りをしようとしてると。

○竹村委員　いいですね。

○東　委員　これは弁理士会と一緒にやりながら。これってやっぱり東京でも、なかなかちょっと難しくて、結局今一体どういう状況かっていうと、やっぱりスタートアップに詳しい弁護士さんが、お抱えの弁理士に頼んでくるので弁護士⇒弁理士ルートってなってるって弁理士が表に出てないんですよ。それだけ少ないんですね。特に、テクノロジー系のスタートアップ、特に大学から出てくるとなってくると、かなりその部分の人材不足が取り合いになるので、今のうちから若い弁理士さんとかとスタートアップを、それこそコミュニティーは接続させていってあげたほうがよくて。

○竹村委員　いいですね、なるほど。

○東　委員　ここ結構、一番残された士業の中でも流動性の一番低いところになってます。ちょっと弁護士なんですけど。

○正城委員長　ありがとうございます。そろそろちょっとまとめに入りたいと思いますが、情報発信このアウトプットとアウトカムがありましたけども、アウトカムのほうがベスになるような感じかと思うんですが、確か情報発信は、もうちょっと待ってほしいというところがありました。他はいかがでしょう。例えば、プロジェクト創出で資料2によると3年で25億円の投資っていうのがありましたけども、結果を見ると3年で48億ですか。黄色はついてないんですけど、相当上回ってるように思うんですが、これはここもアウトカムがAになっておりますけども、何か懸念があったんでしょうか。プロジェクト創出は両方Aになってますが。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　今後の下のこの来年度の方針のところにもマーカーで塗ってるところが、この辺がもっとできたら。

○正城委員長　海外展開が。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　Sにつながったのになという、そういう事務局としては、ちょっとそういうふうなニュアンスも込めて。

○竹村委員　なるほど。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　やや控えめに言わせていただいているんですけど。

○正城委員長　そのほか、田中委員も含めていかがですかね。評価のところ。

○田中委員 実際には投資を受けたということは、非常にいいことだと思いますし、実は行政の資料だと、できなかったことが結構フォーカスされて、できなかったことばかり言われるんですけど、やっぱりできたことにフォーカスするというのが、結構重要な思考方法だとしていて。

○正城委員長 ですね。

○田中委員 やっぱりこの資料の中でこれができましたみたいな実績は、もっとアピールしてもいいんじゃないかなと感じました。以上です。

○正城委員長 ありがとうございます。そういう意味ではショーケース、Hack Osakaも長年続けられて地位を確立しつつありますし、今回も様々な活動をされて広がりが出たということですが、共々集まってきたということで進んでるかと思いますが、いかがでしょうかね。

○竹村委員 そうですね、私も1年前に比べると非常にその発信とかコミュニティーを作っていくとか、よりコミュニティーに多様性が出たりとかプロジェクトのほうも、すごく質が高くなってると印象を受けるので。

○正城委員長 そうですね。

○竹村委員 そういう意味では、非常に確実に実績を積み上げられているなというふうな印象を受けております。

○正城委員長 ありがとうございます。東委員も概ね、そういう感じでしょうか。

○東 委員 そうですね、我々も今だったら結構、相談に来られても取りあえずOIH行っときなよっていう無茶振りができる組織になっていたという感じでは。紹介できる先になったっていうのは、結構重要だと思いますし。

○正城委員長 私自身は、ちょっと日本の他の地域をよく知らないんですけども、その大企業との連携っていうのが、新しいプロジェクトからスタートアップが凄くできるっていうところは、ひょっとしたら特徴かなという気もするんですけど。

○東 委員 それは大きいですね。

○竹村委員 うんうん、そうですね。

○正城委員長 それは、やっぱり東京はさすがに多いとは思いますが、東京は除いてそこは強みとっていいでしょうかね。ちょっとほかの委員の方の御意見を伺いたいんですけど。

○東 委員 そうですね、そこは結構行政が、そこをちゃんとアレンジしてるっていうの

は結構ユニークだと思いますね。東京は放っててもできますし。

○正城委員長　　そうですね。

○東　委員　　行政管理をする必要も、もうそんななかったりします。

○竹村委員　　そうなんですね。東京は、もうエコシステムが結構たくさんあるので、ちょっと特殊事例という感じですよ。

○正城委員長　　はい、大阪は、まあ三大都市圏の中で、正にここ数年ベンチャー、スタートアップが盛り上がってきてるとこなんで、候補を上手く繋いでもらえるのかなというふうに思ってます。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　　大阪の場合は、やっぱり大阪市というのが、やっぱり看板が出たほうが、やっぱり大企業も入ってきやすいようなところが、やっぱり色々やって感じまして、だからそこら辺は行政がやっぱり出ていくところと、民間だけでもお任せするところというのを、私どももやりながらこれはこういうふうにしよう。これはこういうふうにしようというのを、ちょっと試行錯誤みたいな形でやりながらやってるんですけど、ですから大企業との連携の時は、やっぱりちょっと今の段階では、大阪市っていうのもやっぱり全面に出たほうが、色々、賛同が出やすいようなところがあります。その辺は、当面そういう方針でやっていきたいと思っております。

○正城委員長　　はい、ありがとうございます。

○竹村委員　　一つオランダとGet In the Ringでしたけど、組んでらっしゃるといふか、ああいうのはすごく着眼点だなというふうに個人的に思ってまして、そのどうして何かシリコンバレーなのか、皆さんそっちに行きがちなんですけど、やっぱりこれから東欧とかもすごく面白いですし、オランダみたいな本当に彼らも海外がないと生きていけないみたいな国なので、そういった国エストニアとか、これから面白いと思うんですけども、そういった何か小国で海外と連携しているみたいなのと、何か大阪が密にタイアップしていくっていうのは、違うちょっと特徴を出していくっていう意味では、非常に面白いんじゃないかなというふうに思います。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理）　　そうですね、正に御指摘のとおり誰が見ても先進地と言われる以外のところですよ。幸いその大使館、総領事館とかJETROとかに、そういうふうなところを通じて、やっぱりたくさんの方がこちらに視察に来られたり、イベントの共催に来られたりするんですけど、そんな中で、あっ！こういうところ全然有名じゃないけど、正にこの地の利を生かして文字どおりハブとして機能してるんですねとか、本当にマー

ケットは小さいけれども周辺、近隣諸国からたくさん人や資金が集まっているんですね。そういう発見をすることが、すごく多くなっているんで、ちょっとそういうところにも習いながら効果的に連携できたらな、とは思っております。

○正城委員長　ありがとうございます。では、いただいた意見をそのコメントのところに、ちょっと事務局のほうで整理いただきたいと思いますが、今日はまだ3月分が入っていないという段階ですが、段階別評価としては、情報発信は恐らくこのとおりだと思うんですが、それ以外についてはSに上がる可能性もあると。全部がSということでは、今はないかもしれませんが、今日はおおむねその方向だったということで終わらせていただきたいと思います。最初にありましたように、また3月末の分をもって皆さんに、最終の御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、次の議題に移りたいと思いますが、議題に大阪イノベーションハブ（OIH）を拠点としたグローバルイノベーション創出支援の基本方針の策定についてということで、これから新しい年度からの目標、基本方針について。まずは事務局から資料に基づいて御説明をお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理）　それでは、資料5に基づいて説明差し上げます。

これまで3年間で2期です。合計6年間やってきての改定なので前期、直前の3年間です。今年度を含む3年間の概要と、あとは達成状況。それから現時点での課題。そして今後の方向性と、こういったものを盛り込んだものにしております。現行とは、少し前書きの説明的な部分が長かったので、その辺を少し削ってすっきりさせております。

それでは順番に御説明いたします。まず、1番目の背景のどこなんですけども、こちらは、まずこれまで6年間取り組んできたことを、平成25年4月に開設しまして、実績二つ挙げてます。5行目です。6年間で276件のプロジェクトを創出・推進支援しました。

それから65億円を超える投資資金を調達しましたと。その結果大阪・関西におけるイノベーションエコシステムの構築に一定の役割を果たしてきてますよと。

それからもう一つは、産業構造、社会的な変化です。その下のところに下線も引いておりますが、第4次産業革命であるとか、あとはSDGsです。こういったことも踏まえた活動に入りますと。

それから大阪での動きなんですけれども、さらにその下に2025年の万博。それからうめきた2期の開発。具体的には2024年に先行の街開きが予定されておりますが、こうい

った大きなプロジェクトが予定されております。こういったことも背景として押さえていかなければいけないことというふうに考えてます。

それからその下2番目です。前基本方針、前というのは現行のものです。今年度末までの基本方針の概要と達成状況ですけれども、理念です。理念は多様な人々が、オープンマインドで、フラットな関係でつながりますと。

一つ目の概要ですけれども、「世界に通用するイノベーションのエコシステムをつくる」こちらは、大阪・関西を強みを持った一つの地域、エリアとして見ておりまして、大阪から直接世界を。あるいは世界から直接大阪に人や資金が移動をしますと。そういったことを理想にしております。

すいません、ちょっとその下は文字が長々としておるんですけども、次いかさせていただきます。めくっていただきまして、産学官それに金を入れた連携ネットワークを強固にいたします。

それから民間主導の運営体制を構築しますと。こちらは行政の役割と民間主導の取り組みであることを明記しております。その下(2)の目標とその達成状況、これは2月末現在の実績ですけれども、3種類の目標を掲げております。こちらは、まずOIHに参画。それからつながる人数。こちらは15万人に対して20万人を超えております。

それから平成30年度のピッチイベントの開催です。こちら3月を合わせると達成する見込みになっております。それから、これがプロジェクトの創出・推進支援。それから投資を受けた金額。こちらについても大きく、ちょっと先ほどの主な取り組みでも触れましたけれども、大きく目標を上回る状況になっております。

それから①、②、③とありまして最後の文書です。上記の達成状況に～から始まる文ですけれども、数値は達成いたしましたし、OIHの認知度も上がりました。それからイノベーション・エコシステムなんですけれども、こちら大企業とか大学との連携も進みまして、大阪市とか、あとOIHっていう拠点のレベルでもそれは進行したと思いますし、あと国や地方のレベルです。こちらでも、例えばその経済産業省のJスタートアップの取り組みとか、近畿経済産業局の関西ベンチャーサポーターズ会議立ち上げとか、こういったような動きも、かなり追い風になって進展していると考えております。

それから3番の現在の課題ですけれども、まず(1)番目「これまでのOIHの取り組みから得られた課題」これは参加者の拡充です。エコシステムの強化と。これは、やはりまだまだ参加者が限られた層にとどまっています、まだまだこの発掘しきれてないと。繰り返しにな

りますけれどもイノベーションの厳選でありますダイバーシティです。多様な人材の確保と。あとクリエイティビティです。この辺のところは今後の課題かなというふうに認識しております。

次のページをご覧ください。（2）番です。「大阪・わが国のイノベーション創出に関する課題」と。白い丸が3つございまして、上の二つは産業や社会の構造の変化に対応しなければならないということを書いております。

それから下の白い丸は、これ繰り返しになりますけれどもオープンイノベーション。オール大阪・関西で機運を醸成していき、その中で文字どおり大阪・OIHが、このハブになるようにしていかないといけないというふうに考えております。

それから最後4番の「今後の方向性」なんですけれども、大きく3つです。書いております。一つ目がコミュニティーやイノベーションエコシステムの充実強化です。

それから②のところです。これはより多くの参画者を引きつけて、それをうまく発信していこうと。③番目は、この万博とかうめきた2期とか、こういった大きなプロジェクトを、このチャンスを最大限に活用しないといけないと。あとOIHの初の成功事例ですよ。これが幾つも生まれている状態に持っていったらいいなど。

それから多様な人材が参画する。協力的なエコシステムができていること。それを明確に世界に発信している。できている状態、そういったことを万博とか、うめきた2期の開発前に想定して取り組んでいきたいというふうに考えております。

最後のページ。基本方針の期間です。こちらはまた来年度、今年の4月から3年間で、また3年目に見直しを行います。

最後に基本方針の目標でございます。こちらも参考実績も同様に今年の2月末現在の数字でございます。まず、ピッチイベントですけれども、少し増やしております。基本週1回は、平均してピッチが行われている状態ですけれども、それぞれ少し回数を減らして3年間で165回というふうにしております。

それからプロジェクトの創出・推進支援の件数。それから投資を受けた累計額です。こちらについても、それぞれ増やし高く設定しております。特に投資額のところでしたら、現行の方針でいきますと、3年間で25億円なんですけれども、そちらを倍増させております。

③番目です。「既存企業や大学などが参画するOIHパートナー会員」こちらはベンチャーを中心としたプレーヤー。それからパートナーを合わせて最近1,000者を超えたわけなんですけれども、プレーヤーと同じぐらい重要なのがパートナーでございまして、こちらは大

阪・関西さらにはそこから広げる形で、まだまだ参画者の発掘の余地があるというふうに考えておりますので、これを一つ3年間で100者を純増させたいというのを目標に掲げております。

最後です。グローバルイノベーション創出支援事業という名前にしておりますので、やはりそのグローバル展開のより具体的な成果として、海外事務所の開設であるとか、海外企業との提携件数であるとか、こちらを具体的に盛り込んでおります。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○正城委員長 はい、ありがとうございました。参考資料は、これはいいですか。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） すいません、これは、こちらはちょっと言葉で書いておるんですけども、これ出来上がる時には参考資料といたしまして大阪の成長戦略とか、あとは大阪市の経済戦略局の運営方針とか、各種統計数字です。こちらを分かりやすいように掲載する予定しております。

○正城委員長 分かりました。はい、ありがとうございます。では、これから3年間の非常に重要な基本方針について御意見をいただきたいと思えます。

まずは、その背景とか、今年度までの3年間の実績を踏まえた上で、本構成というのを記載いただきましたが、どこからでも結構ですので御意見等々をお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。先ほど田中委員からも御指摘あったように、3年間の実績をその課題だけじゃなくて、できたところもきっちりアピールしたらどうかということで、2ポツ目の前基本方針の達成状況のところには、少し書いてもらっているというような認識でよろしいでしょうかね。

課題のところ、大企業の参画を進めるということが（1）一つ目の丸のところ書いてありますけども、その前に「参画者は限られた範囲にとどまっており」というのは、そうなんですか。例えば、こういったところにアプローチはできているが、さらに若者と大企業というようなことを、本当に何かずっと限られてるのかっていうような、ちょっと後ろ向きな表現だったので気になったんですけど。

○田中委員 ちょっとよろしいでしょうか。

○正城委員長 はい、お願いします。

○田中委員 この3年ぐらいは、結構大阪の大企業の経営者の方に入っていて、いろいろ交流イベントなんかをさせていただいたんです。明後日も関西ブリッジフォーラムという同友会さんがされている我々であるとか、スタートアップの起業家であるとか、あと大

企業のいわゆる経営者の社長、会長が入って交流をするというふうになって、非常に一定の効果は出してるんだろうと思います。一応メンターとして大企業の経営者じゃなくて、メンティとしてメンタリングを受けるほうとして私どもであったりだとか、スタートアップが来てるんですけども、何か話聞きますとメンティよりもメンター希望の大企業の経営者のかたは多いということになりますね。

むしろ「メンターをしてる側がメンタリングをされてるようだ」という明言を残されてたりもします。そういった意味で、ここには余り触れられてないんですけども、参加者という観点でいうと、大企業の経営者であるとか、大企業のコアな人たちをもっと巻き込んでいくというのを、選択肢に書き込んでもいいんじゃないかなと思います。今すでにできてますし、これ自体をすごく大きな価値にしていくというのは、非常にありなんじゃないかと思ってます。企業って経営者から変わらないと変わらないので、今後大企業がそのようだったら潰れてしまうというのは明確なんです。緩やかに関西の大企業は潰れていくよりも、今経営者が入ってきて、大企業の若い社員も含んでくれる。この関西のエコシステムから育てれば、かなりパワーになるんじゃないかなと思ってます。以上です。

○正城委員長 はい、ありがとうございます。多分、田中委員も私も同じ方向だと思うんですけど、要するに、そこが今まで失敗していたってということじゃなくて、今まである程度できつつあってかつ大阪ベンチャーサポート宣言とかされたりしている中で、この機会、チャンスが非常にあるような土壌だと思うんで、これもやってきたことやチャンスを利用して、さらに大企業をアプローチするっていう話だったら、分かるかなと思います。今後については、御指摘があがってるように、ようやく今年度出てきたってところだと思うんで、そこはより強化をしないといけないということだとは思っています。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） 分かりました。ちょっと。

○田中委員 ちなみに、よろしいでしょうか。

○正城委員長 お願いします。

○田中委員 万博が近づいているというのは、非常にチャンスだというふうに思ってます。万博のキャッチが何でしたっけ。いのち輝く未来社会か何かでしたよね。何かに書いてましたけども、それで一度は大阪市内のいろんな大阪市商工会議所とか同友会の方からヒヤリングさせてくれということであらっしゃってるんですけども、やっぱりキャスティングボードを握っている50代、60代、70代の方が命輝く生活をするっていうのが、一番重要なんじゃないかなと思ってるんですね。万博に当たって、さあこれから大変だ！みたいな雰囲気

気があるんですけども、せつかくであればこれチャンスなので、楽しんで若者も年上の方々も進めていくにちょうどいい3年間になるんじゃないかと思います。なので、万博を楽しんでみんなで作るというのをイノベーションという観点で語られるようにしていくべきだと思いますし、ただ役所の人たちも万博まで大変だ！大変だ！ってこれからなると思うんです。それよりは、せつかくのチャンスですんで、多分もう二度とないチャンスだと思うんですね。なので、それを楽しんでいくという雰囲気作りもやっぱりここの中に入れていくということが重要ななと思っています。

あと、やっぱり心理的安全性の高い職場がチームとして成果を上げやすいなっていう話ありますけれども、どうしても肯定ファーストよりも否定ファーストみたいなところが世の中にあるんですけども、全てのことを受け入れていくのが、創造自体を基本方針としてやっていく。なので、チャレンジをしようっていうのは、よくあるんですけども、とにかく少々の失敗が役所であったとしても、市民の間であってもスタートアップで少々失敗したとしても会員で受け入れていこうみたいなことが基本方針に入っていると、すごく斬新な気がいたしましてコメントさせていただきました。

○正城委員長 はい、ありがとうございます。どうしても行政の方針だと固いところについて、内容面としては今おっしゃっていただいたようにチャレンジしていかないといけなくて、その姿勢を踏まえた行動をしてないと、そもそも、もともとやりたかったことに辿り着かないのではあるので、非常に難しいところだとは思いますが、そこはちょっと是非工夫をしていただければ。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） はい、ちょっと今いただきました御意見、先ほどの委員長の発言も含めまして、ちょっと表現を工夫させていただいて、また送るときには、ちょっとそこら辺も反映させた形でお送りさせていただきますのでよろしく願いいたします。

○正城委員長 今の点で、他の点いかがでしょう。

○東 委員 あと、ちょっとこの手の大体大企業とかで、いろんなものが出てくるんですけど、ここに役所の方はもっと出てきてほしいなと思ってまして、今結構、霞ヶ関でもいろいろ言われてますけど、若手プロジェクトとかって最近、総務省の若手連中がそうなんです。いろいろと彼らがまとめるみたいなんですけど、やっぱりこれから20、30代のパブリックな若者たちが自分たちの行政を、都市経営するみたいなコミットメントを置くのであれば、もう少し若い行政職員もどんどん入れてっていう。最近、霞ヶ関周辺で、各地方自治体の若手を集めてやったんですよ。

○竹村委員　　ありますね、はい。

○東　委員　　やっぱりすごい自分たちの、やっぱり都市経営のことを考えられていますし、それは民間とは違う視点なのでそこに対して、大企業のリバースピッチはありますけども要素はあるかっていう話もありますんで、特に大阪の場合は、皆さんよく言われてる事業費余りないじゃないですか。結局作業経費とか、従前した経費見てもそんなないですから、他のとこと比べて。かなりやっぱり行政手法で限界がきてるっていうのは、皆さん思われてるところなんですけれども、そういうところをスタートアップと一緒に解決するという、いわゆる Govtech とか言われますけれども、やっぱりそこをもうちょっと入れやすいエリアではないかなと思っています。

でも、ほかの自治体とかを見てると、やっぱりこれだけ大きな自治体で事業費は、なかなか捻出しにくいところって珍しいというところ。

○竹村委員　　そうなんです。

○東　委員　　課題だらけっていう結構やっぱり社会保障が膨らみすぎてるので、だからよく大阪でかくていいですねとか、お金あるからいいですねって言われても、作業資金ないじゃないかっていう、実はそういうところが結構新しくスタートアップがパブリックサービスをやっていくところのビジネス的にどうやるかっていう良いテーマになるというふうに思っています。

それもあって街をあげてって書いてらっしゃるんで、そういう視点でやっぱり大阪市の都市経営を、みんなで考えましょうっていう観点で行政の方も広くこういうところから O I H で出てきて募集するというのから、かなりニューヨークとか、それやっていますよね、今は。ああいうところでやって大阪ぐらいの行政がどんと出て一緒に街を作りましょうっていうメッセージは大きいと思います。

ちょうどあと3年、先ほど田中委員も仰ったように、万博の準備の中継地的な戦略になるので、やっぱり「いのち輝く未来社会のデザイン」ですかね。それがテーマなんで、大阪からそういう新しいメッセージを万博のときに出せるように何にするかっていうのが一つテーマかなと。そうすると、このイノベーションの今の評価資料の K P I は、ずっとこのままある程度延長をされて書かれてるのはいいんですけども、一つ前に何かすごい話題になったのが幸福とか何かそういう話題もなったかもしれませんが、大阪に住んでて何かいいですねというような指標もそろそろ入れだして、何か大阪に来ると楽しいねとかってイベントの回数とかではなくて、どっちかという精神的な満足度とか。この前さっきまで阪大病院に行

ってたんですけど、やっぱりこう万博があって、いのち輝くって言ってるんだったら、認知症のかたも幸せに過ごせるとか、そういう価値をどう出すかっていう、やっぱりお互いが介護疲れとかなってくるんじゃないかと、それぞれの人がそれぞれの疾患を持ちながらも豊に暮らしてるとか、そういうことが提示できないかっていう一つの例です。

○正城委員長 はい、ありがとうございます。竹村委員どうぞ。

○竹村委員 ちょっといただいた話に繋がることなんですけど、万博をどのようにイノベーションのオープンイノベーションの拠点としてテストベッドとして活用をしていくのかってところが、ここに書くことではないのかもしれないんですが、何かせっかくダイバーシティやクリエイティビティを高める取り組みっていうふうに書かれているのであれば、何か期待されるとか、割りとさらっと書かれてるんですけど後期になるとか。もう少し何かこのダイバーシティやクリエイティビティを高めるみたいな意思を、この万博のところにも反映されてもいいのかなというふうに思いました。何かやっぱり仕組み、今度、京都でハルシオン・ハウスっていうワシントンDCで、ずっとやられているスタートアップのインキュベーションをレジデンス型でやるっていう仕組みが、今度日本に京都でオープンするらしいんですけど、日本の場合は、そのいろいろ考えられた結果、やっぱり大企業の中でイントレプレナーをできる方を集めようっていうことで、その8社ぐらいの企業から、その起業家マインドのある社員の方が参画されて、4カ月ぐらい一緒にレジデンス型で住まれてお互いにこう双迫していくみたいなことを、何かアートとか音楽家の方とかも同じ場所に住んでみたいなことをやられるそうなんですけれども、何かそういったものとかも実験だと思うんですが、せっかく万博があるのであれば、何かちょっとそういう新しいより深くごちゃ混ぜが起きる仕掛けみたいなのを、何か誘発されていくと一過性のイベントではなくて継続するダイバーシティのあるコミュニティ。粘着力のあるものっていうのが幾つも生まれていって、そこが自立的にダイバーシティのある方で進展してくれるっていう、何かそういった何かイメージが私の中で今出てきたんですけど。

○大阪市経済戦略局（柳内課長） まだ今の時点では、その万博のこのやるかが決まってる。何をどのようにつけていうところが、恐らく来年度以降の話なので。

○竹村委員 はい、そこの多分プロデュースをせっかく今までの御経験があるので。

○東 委員 そうそうOIHで。

○大阪市経済戦略局（柳内課長） だからその辺りを、ちょっと今の時点ではなかなか見えない部分があったので、こういうちょっと抑えた言い方になっているっていう部分も、実

はありまして。

○竹村委員　　だけど何かその辺の意思は反映されてもいいのかなという気は。

○大阪市経済戦略局（柳内課長）　　そうですね。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　　今ちょっと我々のほうで考えているのは、先ほども資料4のほうで説明ありましたが、オープンイノベーションの取り組みというやつで、イノベーションエクスチェンジと呼んでるやつで、大企業とスタートアップの連携できる機会をとにかく増やしていきたいなというふうに思ってます、それによって更にスタートアップがいろいろ集まってきて、それでまた新しい連携が生まれていくっていう、そういうことができなかって、そういうことをまず万博に向けて盛り上げていきたいっていうふうに、盛り上げに繋がらないかいうのを。

○東　委員　　できたら、そこに大企業とスタートアップ等を、そこに結構パブリックの要素を入れないと、多分次に大企業とスタートアップって出てはきてるんですけど、次どうやってこう一緒にパブリックリーチかけるかみたいな世界で問題になってまして、今。東京都とも、実はその話もしてるので、実は。東京都もどっちかというか完全に民間に回っちゃってるので、それで出来てきてるんですが、東京都の行政からいきましょうって言った瞬間にパブリックが断絶されてたので、どう接近したらいいかっていうその距離感を縮めようとしてまして。

何かっていうと、最後は街づくりになってるんですよ。やっぱりスタートアップがやっぱり解決しないとことは、最終的にはソーシャルイシューになってくるので、パブリック的なところに入り込まざるを得ない。特に医療とかになってくると。そこってやっぱりパブリックのピースが欠けていて、実は大企業もこの辺、若干困ってるんですよ。やっぱりもともとのパブリックの調達関係ではなくて、一緒に地域をよくしようっていう観点でいくと、やっぱりこう行政とのこれとこれをどう合わすかみたいは話が出てきてるので、実はそこにパブリックが入るとできることが、かなり増える。それをうまくやってるのが今、福岡なんですよ。完全に産官学に市民もくっついて、パブリックが旗を揚げると一体化するみたいな、それが結果ブランディングにもなってるという話なので、多分次の3年間には、そのパブリックとの関わりで、どれだけパブリックが入った関与したプロジェクトが作れたかとか、もう一つチャレンジしても面白い領域かなというふうに。特に「今いのち輝く～」となってくると、もう住民生活の話なので自分の生活のマネージってパブリックの業務ですから、民間の業務というよりは。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） はい。

○正城委員長 はい、ありがとうございます。もう少しの時間。田中委員また、他にあれば。今のに関連して何かございますかね。

○田中委員 はい、大丈夫です。

○正城委員長 はい、ありがとうございます。ちょっとその基本方針について、もう少しこれまでの実績なり、チャンスをつまえて前向きなチャレンジしていく姿勢が分かるような書きぶりといいますか。大きなところは特に御意見なかったと思いますが、そういった方向性というかお出しいただくということで進めたいと思いますが、時間ないですけど。前の基本方針で理念って書いてあって、多様な人々がオープンマインドでフラットな関係でつながるっていうのは、スパッと書いてあるんですけども。

○東 委員 すばっと。

○正城委員長 新規の3年でも何かこういうのがあると。ダイバーシティは項目には入ってましたけどとか、チャンスとかチャレンジとか何かそんなような感じかなとは思んですけど、今日の御意見というのは。これ自体はすごくいいですね。

○竹村委員 1点だけいいですか。先ほど東委員から市民っていうお話が出たんですけど、そのどうやって市民のこういったものに対する重要性の意識を高めたりとか、楽しい形で参画してもらってっていうのは、すごく大切だと思うんです。そこもやっぱり万博とかをうまく活用できるのかなというふうに思うんですが、余りこういった活動とか知らなかったりして、ちょっと人ごとなんですよ。

○東 委員 ほとんどね。

○竹村委員 いや、人ごとじゃなくて大阪の未来を産業を作っていくようなことをやるんだよっていうふうに説明すると、あっそうなんだっていう感じではあるんですけども、やっぱりどうしてちょっとスタートアップの世界ってただ無心になりがちなので、大阪の場合中小企業もすごく多いと思いますし、そういった市民の意識っていうか認知度とか関与度、関与度マインドっていうんですか、そこが上がってくるとそのパブリックが入ってきたときにすごくいいものになってくる。

○東 委員 そうですね。

○正城委員長 前回の委員会でも、なぜ大阪でやってるんだとか、ストーリー性とかっていう話が、多分いろいろ出たと思うんですけど何かそういうのがあると伝わりやすいように思いますね。どうしても大学とか実際に考えると、あれも入れないといけない。これも入れ

ないといけないって入ってないものに対するエクスキューズができないようなところがありますけど、スパッと一つ出していただいて、いや、それでも他でも呼べるんですよってというような寛容的な姿勢でメッセージ性を出していただいたらいいのかなとは思いますが。

では、この議題は皆さんよろしいでしょうかね。今後の取り組みについて、っていうのが議題に入ってますが、もうほぼ今までのを踏んで終えてますでしょうかね。特に付け加えるところは事務局ありますか。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） これにつきましても、万博とかでいろいろ御意見をいただきましたけれども、万博とかうめきた2期の開発があるんで、これをこういう機会があるので大阪をこれから変えていこうという、正にいただきました趣旨そのものだと思うんですけども、そういうことを前提にこちら事務局としては資料を作っております。ちょっとまだまだ私どもも、そこまで計画、度胸がなくて今日も御指摘いただきました内容を基に、もう少しどういうふうにできるのかというのは検討をしていって、またお送りさせていただきますのでよろしくお願いします。

○正城委員長 はい、よろしくお願いします。では、議題が3まで終わりましたのでありがとうございます。冒頭事務局から御説明がありましたように、今年度の評価については後日3月末の時点の確定した数値と、本日皆様からいただいたコメントを記載した案というような形で送付していただきますので、各委員御確認いただきまして、その時点で追加のコメントとか御意見があったら事務局にお送りいただくようお願いいたします。

その上で、改めて最終の最終という形で、事務局でまとめていただいた分を、私の委員長のほうで確認をさせていただきたいというふうに思いますが、その点、各委員の方よろしいでしょうか。

○竹村委員 はい、よろしくお願いします。

○東 委員 お願いします。

○田中委員 はい、よろしくお願いします。

○正城委員長 では、議題1については、そのように進めさせていただきます。

議題2につきましては、これはこの評議会としましては、今意見をお伝えするというところで、あくまでも大阪市さんが作られるという話でございますけれども、私の方で最終案を確認ということですけど、先ほど。よろしいですか。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） はい、それで結構です。

○正城委員長 分かりました。では、今日皆様からいただいた御意見で反映できるところ

が反映されてるかということ私の方で確認させていただきまして、最終的には大阪市さんとして作られた更新として、5月頃をめどに書面で御報告いただくということをお願いしたいと思います。

それでは、本日の評議会は以上です。皆様、ご協力をいただきましてありがとうございました。

○田中委員 ありがとうございました。

○竹村委員 ありがとうございました。

○東 委員 ありがとうございました。

○正城委員長 事務局、最後何かあればお願いします。

○大阪市経済戦略局（柳内課長） 長時間にわたり誠にありがとうございました。

本日は以上となります。引き続き本市の施策に対しまして御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

○正城委員長 ありがとうございました。

○竹村委員 ありがとうございました。

○東委員 ありがとうございました。

○田中委員 ありがとうございました。

閉会 午後3時30分